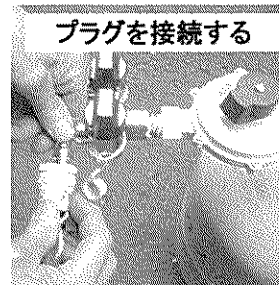
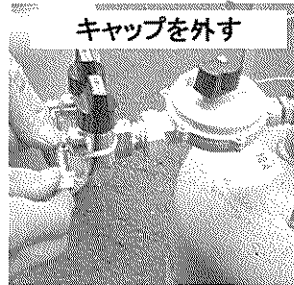


プロパンガス使用手順

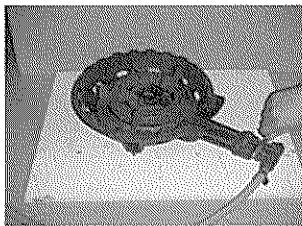
・※ガスの取扱いには十分注意しましょう！ 使用上の注意事項をきちんと守り、お使い下さい。

【コンセント継ぎ手式(接続プラグ)】

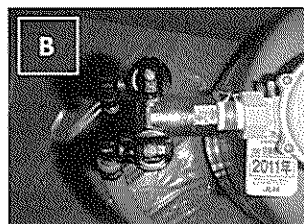
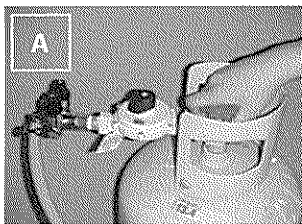
①調整器のプラグのキャップを外し、ゴム管のコンセント継ぎ手(接続プラグ)を調整器のプラグに差し込み、『カチッ』と音がする事を確認します。



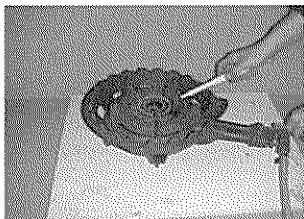
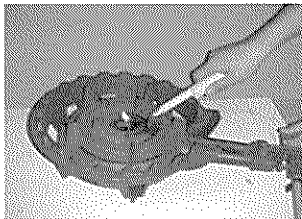
②ガス器具の元栓が開まっている事を確認します。



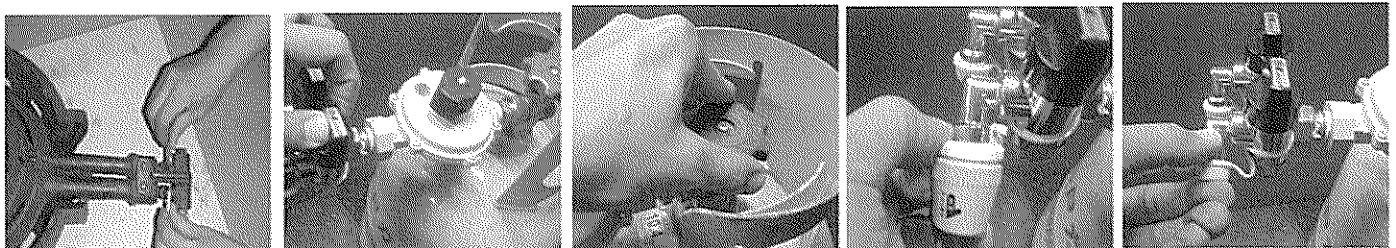
③プロパン容器のバルブを反時計回りに少しまわし開栓します。(画像A)
全開にすると閉っていると勘違いしてしまう事があり大変危険です。
 (全開にしても圧力が適量となるように調整している為、ガスが出る量は増えません。)
 次に調整器のゴム管が繋いであるほうのコックを完全にまわして下さい。(画像B)
 (2口調整器を使用する場合、ガスを使用する器具側のコックだけをまわして下さい。)
 (ゴム管が繋がっていないコックは絶対にまわさないで下さい。)



④ガス器具のバーナー部分に着火マンなどの火種をおいてから、コックをまわします。必ず1カ所ずつ点火して下さい。



⑤使用後は必ず消火を確実にし、器具栓、調整器のコック、プロパン容器のバルブを完全に閉めて、ゴム管のコンセント継ぎ手(接続プラグ)を外して下さい。最後に調整器とゴム管のキャップを必ずかぶせて下さい。(傷が付いたりゴミが入ると、ガス漏れの原因になります。)



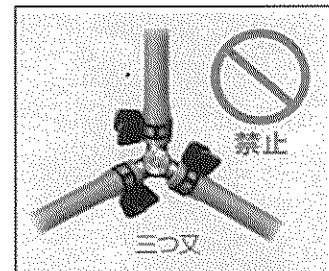
ご使用上の注意

プロパンの注意事項

※ 当社の合格基準に達していない器具には、プロパンガスをお売りする事は出来ません！

【ゴム管および器具】

- ・ ガス器具・ゴム管(オレンジ色)はプロパン仕様の器具を使用して下さい。(都市ガス仕様の器具は不可)
- ・ 古いゴム管(ひび割れ、焼け焦げ跡等)は絶対に使用しないで下さい。
- ・ ゴム管のコンセント継手(接続プラグ)は、調整器が動かないように手でささえ調整器プラグ(ガス接続口)に差し込み、『カチツ』と音がする事を確認して下さい。
- ・ ガス器具の下にゴム管を通したり、折り曲げたりしないで下さい。
(熱でゴム管が溶け、ガス漏れの発生や、ガスが滞るなどの危険があります。)
- ・ ゴム管を踏まないで下さい。(机の脚などに注意)
- ・ 三つ又は危険なので、絶対に使用しないで下さい。(右画参照)
- ・ 熱せられたガス燃焼器具にゴム管が触れない様にして下さい。
(ゴム管が焦げ、ガス漏れの危険があります。)
- ・ 調整器を使用しない時は必ずプラグキャップをかぶせて下さい。
- ・ 引き出しのある器具には必ず水を入れて下さい。(焼き鳥器、鉄板焼き、タイ焼き器等)



【プロパン容器】

- ・ 10kg容器は屋外使用、屋外保管厳守して下さい。(車両での運搬は8kg容器以下で合計で20kgまでとなります。)
- ・ 夏期の車中など、高温の場所に長時間、放置しないで下さい。(ガス放出の原因になります)
- ・ ゴム管は2m以上の物を使用し、プロパン容器は付近の火気から2m以上離すようにして下さい。
(過度に長いゴム管は足を引っかける等、大変危険です。)
- ・ 調整器は絶対に外さないで下さい。(調整器についている黒いキャップは動かさないで下さい。)
- ・ 調整器接続部分は壊れやすいため、モノをぶつかけたり、衝撃を与えないで下さい。
万が一、調整器が折れてガスが吹き出した場合は、あわてずにプロパン容器のバルブを閉じて下さい。
- ・ 容器が倒れないように平らな場所で保管及び使用して下さい。
- ・ 車両で運搬する際は最後部から20cm以上離して立てたまま倒れないようにロープ等で固定して下さい。
- ・ 運搬の際は、台車で運ばないで下さい。(振動で接続部が緩む為)
- ・ 容器やバルブに衝撃を与えたり、粗暴な扱いはしないで下さい。
- ・ 使用後はバルブが完全に閉まっている事を確認して下さい。
- ・ 2口調整器を使用する時は使用するガスコックのみ開いて下さい。
- ・ 調整器のコックは寒い日の朝など安全装置が働いて、ガスが出ない場合があります。
その時はコックを閉じて、再度コックを開いて下さい。
- ・ 火力が強い状態での長時間のご使用はご注意ください。容器にはガスが液化した状態で入っている為、使い続けると容器が凍りだし、炎が細くなり、火が消える事があります。ご注意ください。

【使用時】

- ・ **室内でガスを使用する時には、十分に換気をして下さい。**
- ・ ガス器具のそばに可燃物・危険物を置かないで下さい。(雑誌、ライター等)
- ・ 調理する時は可燃性の素材の服装は避けて下さい。
- ・ 着火は目でしっかり確認して下さい。
- ・ ガス器具の炎は青い炎で音がしない状態で使用して下さい。(赤い炎は不完全燃焼、『ポオオツ』と音がする時は空気過剰です。)
- ・ ガス使用中は絶対にその場を離れないで下さい。(風、煮こぼれなどで火が消えると危険です。)
- ・ 燃焼器具のコック及びバーナーの着火部分に油等を落とさないようにして下さい。(目詰まりして火が着かない原因になります。)
- ・ 火を消す時は、必ず目で確かめて、機具栓を開め、消火を確認して下さい。
- ・ 使用後はプロパン容器のバルブが完全に閉まっている事を確認して下さい。
- ・ もしも、ガスが漏れた時には、空気より重い為、物陰や低い場所に溜まります。
その時には下方の風通しを良くして、ほうき等ではいてガスを逃がし十分に換気して下さい。